

会津地域における エコファーマー基準に基づいた水稲栽培の生育と収量

福島県農業総合センター会津地域研究所
平成18年度農業総合センター試験成績概要

1 部門名

水稲 - 水稲 - 形態・生育相、土壌改良・土作り、施肥法
分類コード 01-01-05101300

2 担当者

花見 厚、荒井三千代、山内敏美

3 要旨

秋に稲ワラを鋤込みするか、春耕時に堆肥を施用した上で、化学肥料を慣行栽培の8割に減らしたコシヒカリのエコファーマー基準による会津の水稲栽培(会津エコ米栽培)の生育の特徴と収量を検討した。

- (1) 窒素成分の低減分を有機肥料または鶏糞堆肥で補うことで地域慣行栽培と同等の生育経過でほぼ同程度の収量が確保できる。
- (2) 窒素成分を8割に減らした肥効調節型肥料の春施用と、7割弱に減らした肥効調節型肥料の局所施肥(苗箱施肥)では、初期の生育は劣るが、7月中旬以降慣行栽培並の生育量が確保される。
- (3) 前記の栽培法は穂数が少なかったが、1穂粒数が多くm2当たり籾数は慣行栽培と同等に確保され玄米収量は慣行栽培並から上回る結果が得られた。また苗箱施肥では穂数および1穂粒数が多くm2当たり籾数32,000粒が確保され増収した。
- (4) このエコ栽培は施肥窒素あたりの玄米生産効率の高い栽培法である。

4 その他の資料等

なし